

## 会務報告

### I. 日本珪藻学会第35回大会

日本珪藻学会第35回大会が、平成26年4月26日(土)と27日(日)の両日、名古屋大学東山キャンパスの理学E館(愛知県名古屋市千種区不老町)で、須藤斎氏を大会会長として開催された。大会参加者は63名(うち外国人5名を含む)、講演は口頭発表がシンポジウムでは招待講演を行っていただいた沢田健氏(北海道大学)を含む8題(発表20分)、および一般講演13題(発表15分)、ポスター発表が9題であった。シンポジウムは、「珪藻と古環境」をテーマとし、湖沼ラミナ、沿岸～海洋域の珪藻化石から復元される古環境変動に関する発表が行われた。

第1日目のシンポジウム口頭発表終了後、大会会場理学E館前で写真撮影が行われた。続いて、ショートプレゼンテーションとポスター発表が行われた。その後、平成26年度の総会が、大会会長を議長として開催され、報告と審議が行われた。総会後には、理系地区レストラン花の木で懇親会が開催された。懇親会には約60名が参加し、予定時間を超えて話が弾んだ。

第2日目は、午前中に口頭発表が行われ、海洋から淡水、化石から現生さらには、ウイルスやバイオマーカー、遺伝子解析まで幅広い内容で議論が進んだ。また、午後には参加者約30名で「珪藻化石を見てみよう!」と題したワークショップが行われ、珪藻学会会員にはなじみがない堆積物からの珪藻化石の抽出法とスライド作成方法の実演が行われた。また、参加者が持ち寄ったスライドや、世界各地、様々な時代の珪藻化石スライドの観察をしながら、分野を超えた研究者・学生らの議論が行われた。これらは午後5時近くまで熱心な参加者の協力のもと行われ、大会は盛会のうちに無事終了した。

本大会は、珪藻化石にスポットを当てたものとなった。その目的は、珪藻化石やそれに関連する物質を含む堆積物からどのようなことが分かるのかを理解していただくこと、さらに今後これらの研究を進めたり、学会会員たちが共同研究を始めるきっかけとなったりするような機会を提供すること、であった。これらが少しでも達成できていれば幸いである。最後に大会の準備並びに運営に協力していただいた名古屋大学の珪藻学会会員や学生諸氏に感謝を申し上げる。

### II. 平成26年度運営委員会

平成26年度日本珪藻学会運営委員会が、平成26年4月26日(土)11時30分より名古屋大学環境学研究科理学E館E127号室において開催された。出席者は、真山茂樹(会長)、真山なぎさ、伯耆晶子(幹事)、須藤 斎(編集委員、大会会長)、大塚泰介(運営委員、編集委員長)、辻 彰洋(運営委員、編集委員)、出井雅彦、長田敬五、鹿島 薫、南雲 保(運営委員)、豊田健介(HP委員)、斉藤めぐみ(監査)の12名。審議が長引いたため、講演を挟み16時45分に再開された。

### 【報告事項】

- 1) 会員状況
- 2) 会計状況
- 3) 編集委員会関係状況
- 4) 学会誌保管状況
- 5) 学会誌の新たな海外寄贈先  
Diatom 29巻の寄贈先12件について報告された。
- 6) 大会および研究集会開催地
- 7) J-STAGE 関連状況
- 8) 日本珪藻学会アンケート実施結果
- 9) 学会 HP 珪藻トピック
- 10) 日本分類学会連合総会参加報告

### 【審議事項】

- 1) 日本珪藻学会学会賞について

昨年度の総会で承認された論文賞・奨励賞・功労賞の選考方法について審議が行われ、以下の通り決定された。

#### 【日本珪藻学会 論文賞】

趣旨：学会の発展と学会活動の活性化を目的として論文賞を設ける。

対象：学会誌「Diatom」に当該年度を含む過去2年間に優秀な学術的研究成果、今後の発展が期待される学術的研究を発表した会員。

実施時期：年1回。

選考方法：2月末日までに各役員(幹事および会計監査を除く)が当該年度を含む過去2年間にDiatom誌上に発表された優秀な論文3編以内を推薦する。推薦に当たっては簡潔な推薦理由を付することを可とする(一次選考)。

3月末日までに、推薦数の多かった上位3編を選考対象論文として、同役員が投票を行い、投票総数の過半数の得票を得た論文に賞を授ける(二次選考)。

なお、一次選考で同点となった場合は、その全てを二次選考の対象とする。また、二次選考で最上位が同点の場合はその全てを表彰する。第二次選考で過半数の得票を得た論文がない場合は、当該年の表彰は見送る。

表彰：大会にて表彰する。

副賞：表彰状(全著者)および賞金1万円と学会誌3冊とする(希望するバックナンバーを貰える権利)。

※初回選考は29巻、30巻に掲載された論文を対象として平成27年2月に開始される。

#### 【日本珪藻学会 最優秀発表賞】

昨年の総会で承認された「奨励賞」は、再審議の結果、優れた発表に対する賞としての意味を的確に表す「最優秀発表賞」と名称が変更された。

趣旨：会員の学会参加と発表に対する意欲向上を目的として最優秀発表賞を設ける。

対象：大会および研究集会(同年度)で優秀な発表をした39歳以下の会員。

実施時期：年1回。

選考方法：発表後、大会に参加した役員全員が投票を行う。投票された各発表の得票率を算出する。同年度の

研究集会でも同様の形式で投票を行い各発表の得票率を算出する。大会および研究集会を通じ、最高得票率を獲得した発表に賞を授ける。

表彰：次年度大会にて表彰する。

副賞：表彰状（全発表者）・学会誌3冊（希望するバックナンバーを貰える権利）。

※選考は平成27年度の大会における発表から開始される。

#### 【日本珪藻学会 功労賞】

趣旨：珪藻学の発展と学会の運営に対する功労に対して功労賞を設ける。

対象：珪藻学の発展や学会の発展と運営に顕著な功労が認められた本学会の普通会员（一般）、団体会員、個人賛助会員および団体賛助会員。

実施時期：年1回。

選考方法：会長・運営委員は運営委員会で推薦し（推薦理由説明）、その他の役員（会計監査を除く）は運営委員会に記名式推薦書（対象者名・功労賞推薦理由記述）を提出する。運営委員会で審議決定し、総会で承認を得る。

表彰：次年度大会にて表彰する。

副賞：感謝状。

※選考は平成27年度から開始される。

#### 2) 講演者招聘助成金について

大会および研究集会に講演者を招聘するための費用を学会が助成することが提案され、1大会あたり上限5万円の助成金の予算化を総会に諮ることが全会一致で承認された。

#### 3) 大会・研究集会等支援について

会員に望まれている大会や研究集会での有益な企画を実施するための支援者を学会に要請できる制度が提案された。結論に至らず、継続審議事項とされた。

#### 4) 将来構想宣言

学会が将来へ向けてすべきことを、今後も持続的に実施できるよう成文化することが提案された。趣旨について承認されたが、文案は継続審議することとされた。

#### 5) Diatom の編集体制

編集委員長の業務をサポートするために副編集委員長を設けることにつき、総会に諮ることが承認された。

#### 6) J-STAGE 掲載論文（直近2年分）の著者払いによるオープンアクセス

現在、論文発行時点で個人的にPDFを公開したい会員は1万円を支払っている。同時にJ-STAGEに掲載されたPDF論文を2年待たずにオープンアクセスできる権限を付与することが提案され承認された。

#### 7) Diatom の新たな海外寄贈先

従前の寄贈先であったタイの Yuwadee Peerapornpisal 氏が入会されたため、新たな寄贈先として Krisztina Buczko 氏 (Hungarian National History Museum) が推薦され承認された。

#### 8) 会費未納者退会扱い

以下の一般会員2名を退会扱いとすることが承認された。志賀健司、長谷川康雄。

#### 9) 平成25年度決算案および平成26年度予算案を総会に諮ることが承認された。

#### 10) 保存雑誌の廃棄について

今後保存場所の確保が難しくなる可能性があるため、各巻30部を残して廃棄し、廃棄費用は庶務雑費より支出することが承認され総会に諮ることとなった。

### III. 平成26年度総会

平成26年度総会が、第35回大会期間中の平成26年4月26日(土)17時15分より、須藤齋大会会長を議長として大会会場において開催された。出席会員数49名。

#### 【報告事項】

##### 1) 会員状況（平成26年4月中旬データ）

普通会员192名（内訳：一般会員162、学生会員15、奨学会員5、家族会員2、海外会員6）、名誉会員2、団体会員4、個人賛助会員1、団体賛助会員2、合計197名。

##### 2) 会計状況

平成25年度の決算報告があり、監査の結果適正であると認められたことが報告された。

##### 3) 編集委員会関係状況

Diatom 29巻（平成25年12月31日発行）の内容、「珪藻と古環境」特集号である30巻編集状況、および表紙デザインの変更について報告された。

##### 4) 学会HP

新コンテンツである珪藻トピックについて報告があった。

##### 5) J-STAGE について

昨年J-STAGEで公開されたが写真画質が不良であったDiatom 1~24巻までの頁差し替えは本年4月に完了したことが報告された。公開が承認された25~27巻のうち、26・27巻は業者に委託して搭載済み、28・29巻は発刊に合わせて搭載された。27巻まではフリーで、28・29巻はユーザー名とパスワードで閲覧できる。

##### 6) 学会賞について

論文賞・最優秀発表賞・功労賞の選考方法等について、持ち回りおよび本日の運営委員会で決定した概要が報告された。各賞についての詳細は学会終了後にメーリングリストで知らせることが伝えられた。

##### 7) アンケート実施結果

昨年6月に実施したアンケート結果が報告され、運営委員会でそれを踏まえて、研究集会等の支援体制の整備、講演者招聘助成金の設置、学会運営の将来構想の成文化について審議承認されたこと、また集会支援体制の詳細および将来構想宣言文を、持ち回り運営委員会で継続審議することが報告された。

##### 8) 大会及び研究集会開催予定

第34回研究集会は平成26年11月8日~9日に滋

賀県立琵琶湖博物館にて大塚泰介氏を研究集會会長として開催されること、平成27年度に実施される第36回大会は東京大学弥生キャンパスで、第35回研究集會は栃木県日光市で開催予定であることが報告された。

9) 会費未納者退会扱い

個人会員2名を退会扱いとすることが報告された。

10) 日本分類学会連合総会参加報告

日本分類学会連合第13回総会と公開シンポジウム「生物多様性条約と名古屋議定書が分類学研究分野へ与えるインパクト」が、平成25年1月11日に上野の国立科学博物館で開催され、日本海洋大学の鈴木秀和氏が出席した。国立科学博物館の辻氏からも海外諸国からの採集標本持ち出しが非常に厳しくなっているとの報告がなされた。

【審議事項】

1) 講演者招聘助成金について

概要および学会会計の繰越金が増えている状況であるとの説明があり、助成金の予算化が承認された。

2) Diatom 編集体制について

編集委員長の業務サポートのために副編集委員長を選任できることが承認された。

3) 平成25年度決算

会計監査を受けた以下の決算が承認された。

平成25年度決算（平成25年1月1日～12月31日）

(収入)		(支出)	
前年度繰越金	3,797,843	印刷費(29巻)	625,681
会費	934,000	発送費	65,903
会誌売上代金	86,400	編集費	9,930
別刷代(28巻)	9,790	庶務雑費	33,796
超過頁代(28巻)	30,000	日本分類学会連合分担金	10,000
受取利息	782	J-STAGE登録委託(25~27巻)	0
雑収入	1,260	名簿・アンケート調査費	43,958
		次年度繰越金	4,070,807
合計	4,860,075	合計	4,860,075

4) 平成26年度予算

以下の予算案が提案され、予算が承認された。

平成26年度予算（平成26年1月1日～12月31日）

(収入)		(支出)	
前年度繰越金	4,070,807	印刷費(30巻・30巻別冊)	1,400,000
会費	1,000,000	発送費	100,000
会誌売上代金	100,000	編集費	40,000
別刷代(29巻)	28,510	庶務雑費	110,000
超過頁代(29巻)	60,000	日本分類学会連合分担金	10,000
受取利息	1,000	J-STAGE登録委託費(25~27巻)	46,100
雑収	2,000	次年度繰越金	3,556,217
合計	5,262,317	合計	5,262,317

5) 保存雑誌の廃棄について

各巻30部を残して廃棄し、発生費用は庶務雑費として処理することが承認された。

IV. 持ち回り運営委員会（平成26年4月28日～7月3日）

1) 大会・研究集會での企画に対する学会の支援制度について

承認され、以下の「大会・研究集會開催要項」への追加事項が賛成多数で可決された。

「4：開催者は大会で実施する企画について、必要に応じて支援者を学会事務局に要請することができる。要請に応じて学会会長は開催者と相談の上、適任者(複数)に支援を依頼する。支援者は開催者と密に連携を取り、企画立案や実施において必要な支援を行う。」

2) 将来構想宣言について

修正案を審議し、採択が可決された。なお宣言文は本誌238頁に掲載。

V. 日本珪藻学会第34回研究集會

日本珪藻学会第34回研究集會が、平成26(2014)年11月8日(土)・9日(日)の両日に、滋賀県草津市下物町1091)で、大塚泰介氏を集會会長として開催された。発表は、一般講演16件、ポスター発表8件、シンポジウム講演8件の計32件だった。集會参加者はスタッフを含めると60名(当日欠席者は除く)に及び、他に琵琶湖博物館関係者の聴講や新聞の取材もあって盛会となった。

第1日目は午後からの開催で、一般講演とポスター発表が行われた。終了後、琵琶湖博物館内のミュージアムレストラン「にほのうみ」で懇親会が行われ、湖魚料理を中心とした料理と滋賀の地酒に舌鼓を打った。

第2日目の午前中にはシンポジウム「珪藻の過去と現在をつなぐ」が開催された。現生珪藻の分類学・生態学と古環境解析との連携、あるいは珪藻の進化を探るための分子系統解析と化石研究の連携に向けて、様々な視点からの研究紹介や問題提起がなされた。午後には、大塚氏の案内による琵琶湖博物館ツアーが行われた。

本大会の準備および運営にご協力いただいた琵琶湖博物館はしかけ・たんさいぼうの会の皆様、および琵琶湖博物館職員の皆様に感謝を申し上げる。

VI. 平成26年度編集委員会

平成25年度日本珪藻学会編集委員会が、平成26年4月26日(土)10時30分より、名古屋大学理学部E館E127室で開催された。出席者は真山茂樹(会長)・大塚泰介(編集委員長)・辻 彰洋・須藤 斎(編集委員)・豊田健介(HP委員)の5名。

【報告事項】

1) Diatom 第29巻

全113頁。本巻よりA4サイズになった。

2) 第30巻編集状況

6月発行予定の特集号「珪藻と古環境」の原稿は、全て版組が行われ、校正中あるいは校了したことが報告された。また、12月発行予定の通常号に掲載予定の論文1編の版組も完了し、校正中であることが報告された。

### 3) Diatom 掲載論文のウェブ上での公開について

2013年8月より、掲載が決定した全論文のPDFをJ-Stageにアップし、掲載後2年間は会員認証により閲覧可能、以降はフリーアクセスとしていることが報告された。

## 【審議事項】

### 1) 表紙のデザインについて

真山会長の提起と編集委員会の事前審議に基づいて、表紙の帯にある“The Japanese Journal of Diatomology”および“The Japanese Society of Diatomology since 1979”の表記を30巻より廃し、表紙デザインの若干の変更を行うことが検討され、了承された。

### 2) 第31巻の特集について

出井雅彦氏を企画者として、第34回大会のミニシンポジウムと関連した「珪藻の細胞学」の特集を組むことが決定された。4名の発表者に、それぞれ総説の執筆を打診している。原稿の集まり具合によっては、32巻の特集とすることも視野に入れる。

### 3) 編集委員会の体制変更について

編集委員会に新たに「副編集委員長」のポストを設けることで、現在は編集委員長が行っている業務を分担できる体制とすることを、運営委員会に諮ることが承認された。

### 4) 物故者による審査途上の論文の扱いについて

Diatomに投稿された論文原稿が修正後掲載可の判定を受け、しかし投稿者が修正稿を提出することなく亡くなってしまった事例について、その原稿の取扱いを検討した。

## VII. 平成27・28年度役員

任期満了に伴う次期会長および運営委員選挙（平成

26年9月20日告示、10月28日投票締め切り）が実施された。平成26年11月8日11時45分より琵琶湖博物館にて、寺尾和明氏、中村憲章氏を立合人として開票され、会長及び運営委員8名が選出された。役員任期は平成27年1月1日から平成28年12月31日。

会長：南雲 保〈次点者：出井雅彦〉

運営委員（50音順）：出井雅彦、長田敬五、斎藤めぐみ、澤井祐紀、鈴木秀和、須藤 斎、豊田健介、真山茂樹〈次点者：伯耆晶子〉。なお、豊田健介氏の辞退により伯耆晶子氏が運営委員となる（次々点者：後藤敏一）。

幹事：長田敬五（庶務）、松岡孝典（会計・会員）。

編集委員長：出井雅彦。

編集委員：阿部信一郎、大塚泰介、佐藤晋也、澤井裕紀、須藤 斎（50音順）。

会計監査：平成27年度運営委員会において選任。

## VIII. 会員異動

〈新入会員〉Peerapornpisal Yuwadee, 深澤哲治, 宇佐美 豪崇, 井上智仁, Adil Y. Al-Handal

〈退会〉押手 敬, 中村勇洋, 掛川優子, 斉藤直美, 松井 篤子

〈退会：会費未納〉志賀健司, 長谷川康雄

・木下新一会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

〈住所変更等：省略〉

## IX. 平成27年度大会および研究集会開催予定

日本珪藻学会第36回大会

開催予定日：平成27年5月9・10日

場所：東京大学農学部弥生キャンパス（東京都）

世話人：加藤和弘（放送大学）

日本珪藻学会第35回研究集会

開催日予定日：平成27年11月7・8日

場所：日光交流促進センター風のひびき（栃木県日光市）

世話人：阿部洋子（珪藻ゼミ）